平滑筋学会と私

名古屋大学名誉教授
富　田　忠　雄

この度は第50回の平滑筋学会を記念するこの講演会にお話しする機会を与えて頂き，大変光栄に思っています．年とともに記憶も薄らいできていますが，思い出話のような個人的な内容を中心に，平滑筋学会において私との関連が多かった人々とのつながりを主にお話させて頂きたいと思います．

表1は後藤昌義先生と栗山熙先生の平滑筋研究の経緯や平滑筋学会への関与の一端をまとめたものです．私が1956年に九州大学の生理学教室に入局した年に後藤昌義先生は九州大学から鹿児島大学医学部生理学教授として赴任され，翌年には栗山熙先生も助教授として鹿児島大学に赴任され，この時からお二人は平滑筋の研究を新しく始められました．その後，今から数えるとちょうど50年前の1958年に，後藤昌義先生はRockefeller研究所（ニューヨーク）のCsapo教授の所へ短期留学され，そのあと入れ替わりに栗山熙先生がRockefeller研究所へ留学されました．両先生はともに子宮平滑筋の研究をされ，特に栗山熙先生は著明な成果を挙げられました．

表1　後藤昌義，栗山熙先生の平滑筋研究の始まり

1956年	後藤昌義先生が鹿児島大学教授として赴任され，平滑筋の研究を始められる
1957年	栗山熙先生が鹿児島大学助教授として赴任される
1958年	後藤先生がRockefeller研究所(Dr Csapo)へ留学される
1959年	栗山先生がDr Csapoの所へ留学される
	後藤先生が九州大学教授になられ，次第に心筋の研究に移られる
	後藤先生が第1回平滑筋筋電図研究会（仙台）へ参加される
1960年	栗山先生がOxford大学（Dr Bülbring）へ移られる
1964年	栗山先生が九大生理助教授として帰国される
	後藤先生が第6回平滑筋学会でDr Bülbringを招聘される
1968年	栗山先生が九大歯学部（新設）生理学教授として赴任される
	第10回平滑筋学会（仙台）へ栗山先生に誘われて初めて出席
1974年	栗山先生が第16回平滑筋学会の会長を務められる
1976年	栗山先生が九大医学部薬理学教授に転任される

後藤昌義先生は帰国後に教授として九州大学医学部生理学教室に戻られ，次第に心筋の研究へと移行されましたが，平滑筋学会の前身である平滑筋筋電図研究会および初期の平滑筋学会には積極的に参加され，平滑筋学会は基礎と臨床を結び付ける大変ユニークな学会だと言っておられました．栗山熙先生は1年ほどRockefeller研究所におられ，1960年にOxford大学薬理学教室のBülbring先生のところに移られ，1964年までの4年間おられました．Oxford大学で数多くの業績を挙げられた栗山熙先生は帰国された後，九州大学医学部生理学教室（後藤昌義先生とは別の生理学教室）の助教授に就任されました．その後まもなく，後藤昌義先生は福岡市で第6回日本平滑筋学会を主催され，Bülbring先生を招聘されました．栗山熙先生は九州大学歯学部口腔生理学教授を経て，同大学医学部薬理学教授となられ，平滑筋研究に数多くの業績を挙げられたことは私が紹介するまでもありませんが，栗山熙先生の教室からは優秀な研究者が輩出されて，この学会でも多くの方が活躍されています．

私は1964年に，栗山熙先生のお世話でOxford大学薬理学教室のBülbring先生の所へ留学し，初めて平滑筋の研究を始めることになりました．後藤昌義先生と栗山熙先生のお陰で，その後平滑筋研究の道を歩むことができ，大変感謝していますが，両先生は既にお亡くなりになられ，残念です．

図1は，鈴木泰三先生が東北大学で第10回平滑筋学会（1968年）の会長をされた時にCsapo教授を招聘されましたが，その折にCsapo教授の許へ留学された方々と一緒に撮られた写真です．鈴木泰三先生（東北大学），真島英真先生（順天堂大学），栗山熙先生，武田寛先生（九州大学，のちに塩野義製薬研究所）の順で留学されました．後藤昌義先生は真島英真先生の後に留学されましたが，当時はすでに心筋の研究を主にされていて，平滑筋学会には出席されなくなっていました．私はこの学会の年に帰国し，九州大学医学部生理学教室に勤め始めましたが，その直後に学園紛争が始まりました．帰国して2ヵ月後でしたが，栗山熙先生に誘われて初めて平滑筋学会に出席しました．それ以降，大学を辞す平成10年（1998年）まで，約30回，ほぼ毎年，平滑筋学会に出席いたしました．今回の抄録には第11回の箱根で開催された平滑筋学会が初めての参加と書いていますが，この時に江橋節郎教授（東京大学医学部薬理学）とお会いしたのが印象として残っておりますので，勘違いしたようです．

今回，ご招待いただくにあたり，昔のことを少し調べましたら，20年ほど前の昭和60年（1985）に小野慶一教授がお世話された第27回平滑筋学会が今回と同じ弘前で開催されており，その時に「日本における平滑筋研究の歩み」というフォーラムに参加させていただいたことを微かに想いだしました（図2）．平滑筋学会誌第21巻第5号にそのときの記録があり，それまでの学会の経緯が詳しく記載されております．この学会の後で，太宰治記念館の「斜陽館」を訪れたことを想いだします．このフォーラムに呼んでいただいたのは多分，鈴木泰三先生や田北周平先生（徳島大学）のお陰だと思っています．田北周平先生はこの学会の2年後に亡くなられました．私は平成17年秋に名古屋から福岡へ転居いたしましたが，その後まもなくして鈴木泰三先生の奥様から先生が平成16年3月（2004）に85歳で亡くなられたとの知らせを頂き，驚きました．

平滑筋学会に関連して想いだしますのは，ハワイで開催された平滑筋に関する基礎，臨床の日米セミナーです．槇哲夫先生，鈴木泰三先生，白鳥常男先生ら東北大学の先生方が中心となって企画され，1968年，1977年，1985年と3回開催されました（図3）．このセミナーでは多くの国内外の有名な先生方にお会いすることができ，ハワイで楽しく過ごすことができました．これらのセミナーに参加できたのは鈴木泰三先生や栗山熙先生のご配慮だと思います．1977年のセミナーでは伊藤漸先生のモチリンについての研究の成果についてお伺いしました．砂野哲先生とも，この時はじめてお目にかかったのではないか思います．最後に挙げていますBozler先生のためのシンポジウムは平成元年（1989）にColomubus（オハイオ州）で開催されました．この会は栗山熙先生がCincinnati大学のSper-

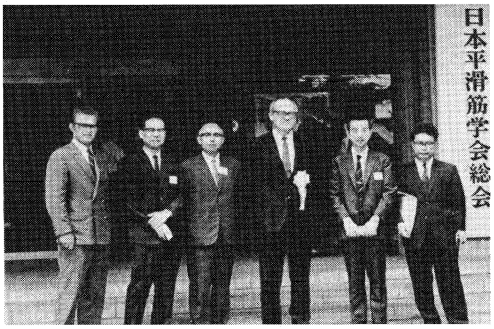

図1.　Csapo先生の友人，武田，鈴木，Csapo，真島，栗山先生
第10回（1968年）平滑筋学会（会長：鈴木泰三教授，仙台）
（日本平滑筋学会雑誌　第21巻，第5号，1985年）

発言者	槇　哲　夫	（東北大学名誉教授）
	田北周平	（徳島大学名誉教授）
	福原　武	（岡山大学名誉教授）
	富田忠雄	（名古屋大学教授）
司　会	鈴木泰三	（東北大学名誉教授）
	白鳥常男	（奈良医科大学教授）

第27回平滑筋学会（弘前文化センター）
会長　小野慶一　弘前大学第二外科教授
昭和60年（1985年）6月6日～7日
日本平滑筋学会雑誌第21巻，第5号
昭和60年10月（1985年）

図2.　フォーラム　日本における平滑筋研究の歩み

Seminar on Clinical Application of Smooth Muscle Electromyography
槇　哲夫，鈴木泰三，(白鳥常男)，Nelson, TS
Hawaii　December 16-20, 1968
発表者　日本13，アメリカ12，カナダ1，オーストラリア1

US-Japan Seminar Controls of Contractions in Visceral Smooth Muscle: Mechanisms and Clinical Implications
鈴木泰三，Christensen, J
Hawaii　December 19-21, 1977
発表者　日本15，アメリカ27，カナダ2

U.S.-Japan Cooperative Science Seminar on Gastrointestinal Smooth Muscle in Health and Disease
白鳥常男, Kelly, KA
Hawaii　January 10-12, 1985
発表者　日本13，アメリカ17，カナダ1，オーストラリア1

Bozler International Symposium
Sperelakis, N, Wood, JD, (栗山 熙)
Columbus, Ohio　May 19-20, 1989
発表者　日本11，アメリカ40（日本5)，カナダ11，英国6，ドイツ5，オーストラリア2，オランダ1

図3.　日米セミナーの概要

elakis教授の所へ行かれたとき，栗山熙先生の提案で開催することが決まったものです．基礎研究者の方が中心でしたが，日本を含め欧米から大勢の平滑筋研究者が参加し，大変盛会でした．この会には唐木英明先生（東京大学）も出席しておられました．

平滑筋学会ではたびたび海外から講演者が招かれており，私が数えたところ，今まで延べ数は多分37名程になると思います．表2は，私が調べた範囲で年代順に示したものです．これらの人々の中で，G. Burnstock, M. Holman, J. Szurszewskiの3人の方はOxford大学薬理学教室においてE. Bülbring先生と共同研究をされた人たちで，下線を付してあります．この3名の方以外にも下線を附している人たちはBurnstock教授あるいはHolman教授と一緒に研究した人たちです．平滑筋学会程度の比較的小規模な学会において，このように多くの講演者を海外から招聘されたことは，日本の平滑筋研究者にとって有意義なことであったと思います．

第22回平滑筋学会(1980年)では，札幌のビアガーデンでDanielご夫妻と同席したのが，つい最近であったように想い出されます．この学会を世話された札幌医科大学の宮崎英策教授は，学会後あまり長くない時期にお亡くなりになられ，驚きました．

私は第30回平滑筋学会を名古屋で主催しましたが，この時Kao博士を招聘しましたのは，鈴木泰三先生から依頼されたことによります．この時の学会では名古屋市立大学薬学部の渡邊稔先生，今泉祐治先生に大変助けていただきました．

今まで各地で開催された平滑筋学会を振り返ってみて，例えば市川三太先生が主催された山中湖における第18回学会(1976年)での野外バーベキューや，土田先生がお世話された第33回（1991年）の秋田での学会の時に竿灯を見せて頂いたことなどが強い想い出として残っています．平滑筋の研究を続けてきたことで素晴らしかったと思いますのは，国内はもとより，世界的な人との繋がりができたことと，学会出席や共同研究などで海外に出掛ける多くの機会を持ちえたことです．

学問と関係のない話ばかりになりましたので，最後に少し，最近感じていることを簡単に纏めたいと思います．平滑筋学会は基礎と臨床とを結び付けるという非常に特徴のある学会と

表 2

平滑筋学会	海外からの招待者	学会会長
第 2 回（1960 年）	Bozler, E (Ohio)	井上　清恒（昭和医大）
第 6 回（1964 年）	Bülbring, E (Oxford)	後藤　昌義（九州大学）
第 10 回（1968 年）	Csapo, AI (Washington)	鈴木　泰三（東北大学）
第 12 回（1970 年）	Bortoff, A. (State Univ. NY)	銭場　武彦（広島大学）
第 17 回（1975 年）	Daniel, EE (Alberta)	白鳥　常男（奈良県立医大）
第 20 回（1978 年）	Holman, ME (Monash)	横山　正松（福島医大）
第 22 回（1980 年）	Daniel, EE (McMaster)	宮崎　英策（札幌医大）
第 26 回（1984 年）	Burnstock, G (London)	中山　　沃（岡山大学）
第 27 回（1985 年）	Szurszewski, JH (Mayo)	小野　慶一（弘前大学）
第 28 回（1986 年）	Furchgott, RF (State Univ. NY)	粕谷　　豊（星薬科大学）
第 29 回（1987 年）	Wood, JD (Ohio)	古味　信彦（徳島大学）
第 30 回（1988 年）	Kao, CY (NY Downstate)	富田　忠雄（名古屋大）
第 32 回（1990 年）	Sanders, KM (Nevada)	伊藤　　漸（群馬大学）
第 35 回（1993 年）	Furness, JB (Melbourne) Kim, KW (Seoul)	田中　　隆（日本大学）
第 36 回（1994 年）	Parkington, H (Monash) Creed, K (Murdoch)	長　　琢朗（山口大学）
第 38 回（1996 年）	Hirst, GDS (Monash)	一条　元彦（奈良県立医大）
第 39 回（1997 年）	Burnstock, G (London)	砂野　　哲（近畿大学）
第 40 回（1998 年）	Costa, M (Flinders)	横山穣太郎（慶応大学）

第 49 回（2007 年）までの延べ総数：37名

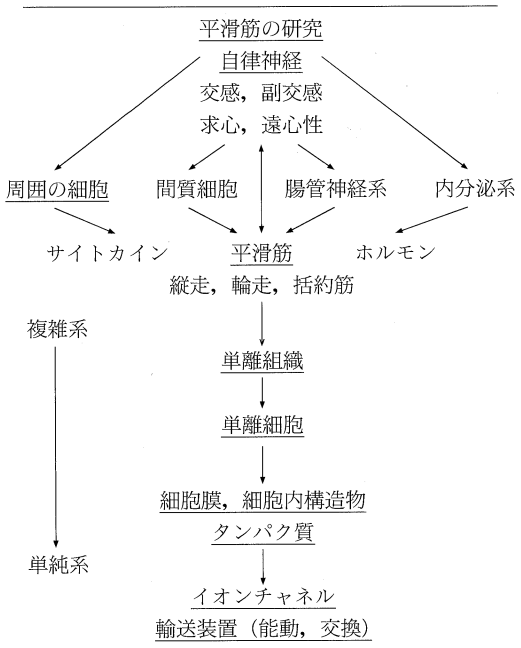

図 4.

して発足したと聞いていますが，基礎での研究はこの 50 年の間に組織，細胞，細胞膜，イオンチャネルなどと次第に生物物理学の単純化した分析的な方向へ進んできています（図 4）．最近では分子生物学や遺伝子レベルでの研究も盛んになってきて，なかには臨床的な問題と直接結び付くような事例も報告されるようになってきて，こうした新しい分野の研究の急速な進歩に強い印象を受けています．しかし，殆どの臨床や病理の問題は多くの要素が複雑に関わり合っていますので，今後はもっと少し広い視野に立って，自律神経，内分泌，あるいは局所的ないろいろのサイトカインなどの平滑筋に対する数多くの相互作用について総合的な研究を進める必要があるように感じています．今後，この学会の特徴とされる基礎と臨床との結び付きが更に強まることを願っています．

私のつまらない話をおき聞き頂いて大変有難うございました．